

〔 研究区分： 地域課題解決研究 〕

|   |  |                                |
|---|--|--------------------------------|
| 研究テーマ：  | 参加型の新しい開発教育教材の普及と開発<br>～広島地域課題に根ざした ESD の取組～ |                                |
| 研究代表者：  | 人間文化学部 国際文化学科<br>教授・富田和広                     | 連絡先： tomita@pu-hiroshima.ac.jp |
| 共同研究者：  | 准教授・植村広美                                     |                                |
| <b>【研究概要】</b><br>[背景] 広島県は「ひろしま未来チャレンジビジョン」においてグローバル化に対応できる人材の育成の取組を進めることとし、『国際平和拠点ひろしま構想』では市民社会と連携した教材の開発の必要性をあげているが、この施策にそった多文化共生の教材開発が全く行われていなかった。<br>[目的] 教材開発を行っている市民団体と連携して、広島における多文化共生をテーマとした教材を開発すること。[実績] 小学生から社会人を対象とした多文化共生について参加型教材を 8 本作成し、教材集を発行、関係各所へ配布した。 |  |                                |

#### 【研究内容・成果】

##### ● 研究概要・目的

本研究は、広島地域課題に根ざした ESD (Education for Sustainable Development) の取組の一つとして、広島県「ひろしま未来チャレンジビジョン」の実現に寄与するという構想をたて、これを具体化するために、広島発の新しいタイプの 7 本のオリジナル多文化共生についての参加型教材を開発し、教材集として発行、無償で配布した。

##### ● 背景

広島県では、平成 22 年 10 月に「ひろしま未来チャレンジビジョン」を策定し、「グローバル化」への的確な対応をするために、グローバル化に対応できる人材の育成の取組を進めることとしている。それに基づき国際関係事業の一環として多文化共生の地域づくり支援事業が行われているが、広島県の施策に合わせた多文化共生の教材作成研究は、ほとんど存在していなかった。

##### ● 特色・独創的な点

平和学習を、持続可能な社会の基礎となる平和構築のための人材育成と位置づけ、参加型学習という教育方法を取り入れるのは独創的であり、広島という地域特性を生かした教材作成という点が特色である。

##### ● 意義

初等教育から高等教育、生涯教育まで、現場にあわせた使いやすいタイプの教材のありかたについて明らかになることは、「ひろしま未来チャレンジビジョン」でうたわれている「グローバル化に対応できる人材の育成の取組」に寄与する。

##### ● 教育研究実施状況の概要

教材開発のために、研究会を 5 回開催した。

ワークショップ等については次の通り7回実施した。実験授業（於：県立広島大学）（6/19）、模擬授業（於：白島小学校）（10/16）、多文化共生学習会（講師：上田愛 JICA 推進員）（於：県立広島大学広島キャンパス）（9/6）、多文化共生ワークショップ「大学生ファシリテーターによる平和と多文化共生を考えるワークショップ」（於：平和文化センター）（12/13）、オリジナル教材試行ワークショップ「多文化共生に関する参加型学習」（於：県立広島大学広島キャンパス）（1/11-12）、『水から広がる学び』ワークショップ「ファシリテーター：西あい（開発教育協会）（於：サテライトキャンパスひろしま）（3/29）

最終的に、8本の新しい教材を作成し、これらを収録した教材集を作成した。

3月には、サテライトキャンパスひろしまにおいて、多文化共生に関する参加型学習「オリジナル教材完成披露ワークショップ」を一般公開で開催した。

教材集『参加型で学ぶ「広島と多文化共生」』は300部印刷し、関係機関に配布した。

## ● 研究成果

学習者が主体的に多文化共生について学ぶための参加型教材を作成した。テーマは、日本語、移民、民族、多文化共生のありかた、平和についてである。

教材集には以下の8本の教材を収録した。

1. 『国語』ってなんだろう？
2. 「日本語ってやさしい？」
3. 「フェルナンドさんがやってきた！」
4. 「中国帰国者を知っていますか？」
5. 「郷に入っては郷に従え」
6. 「食の共生」
7. 「多文化共生スタディツアー」
8. 「同じ？違う？私の平和～被爆樹木と共に～」

教材集には、県立広島大学人間文化学部国際文化学科の学生が作成した教材、海外青年協力隊員・元隊員や、広島で多文化共生に関わる仕事をされている方による多文化共生に関するコラムを収録し、参加型教育に必要な手法や参考図書を含む学習のリソースも紹介している。

# 参加型で学ぶ 「広島と 多文化共生」

県立広島大学  
Prefectural University of Hiroshima

地球市民共育塾ひろしま  
Global Education Network  
For Sustainable Future Hiroshima

## 広島多文化共生スタディツアーを 考えよう

＜執筆者から＞

広島をケースとして多文化共生について考える。次に自分の住んでいる所の多文化共生について考える。そのことで、それぞれの地域ごとの多文化の特徴を意識し、多文化共生社会実現の現実的な方向も明らかになるのではと思います。

◎対象 小中学年/小高学年/中学生/高校生/大学生/社会人/すべての人

◎実施場所 教室

◎時間 50～90分

◎ねらい ローカルな多文化状況に気づく。

◎教材の概説 「あなたは、旅行代理店の社員です。多文化共生をテーマにした修学旅行の企画を命じられました。対象は、小学生・中学生・高校生から選んでください。旅行時間は無制限です。ただし、回れるところは3カ所までです。どこに行ってもどように見学するかを考えてください。出発地点、解散地点も自由です。旅行者が多文化共生について考えることができれば、広島県内のどこに行ってもかまいません。あなたなりの旅行を企画して、企画会議で採用されることを目指してください。」

◎準備するもの ツアー企画書、模造紙、サインペン（パンフレット作成用）

◎展開例

活動① (90分)

1. アイスブレイク (10分)
2. 活動内容について説明 参加者が「スタディツアー」の意味がわからない場合は、ファシリテーターが説明 (5分)
3. 個人で企画書を作成する (ツアー名や参観場所と参観する理由を考える) (10分)
4. グループで集まって、簡単な旅行パンフレット(案)を作成 (20分)
5. 発表 (15分)
6. 各班の発表を聞いて気づいたことをグループ内でシェア (テーマ：各班の多文化共生の定義、3カ所を選んだ理由) (ポスターセッション形式でもよい) (15分)
7. 発表とファシリによるまとめ (15分)

◎留意点・配慮事項

事前に広島の多文化状況について学習しておく方がよい。パンフレットではなく行程表だけでもよい。企画の面白さを競うのではないが、ありきたりのプランばかりにならないようにする方がよい。参加者が住んでいる所でのスタディツアーを考えてもよい。

◎参考文献

■資料・参考図等

- 84 -

[ 研究区分： 地域課題解決研究 ]

---